

DMTC★2018夏期集中合宿 in 南伊豆町

報告書

**東京大学生産技術研究所
沼田研究室**

1. 全体概要

【1】基本概要

1. 実施の背景

RC95で災害対策トレーニングセンター(以下、DMTC)の検討を行っていた際に、会員企業より南伊豆町の廃校の活用提案があったため、沼田研究室より南伊豆町に正式な利用の申し入れと提案を行った。その第一弾として、RC95の会員を対象とした合宿を実施し、DMTCのトレーニング及び廃校の活用検証を行うこととした。

※RC95：一般財団法人生産技術研究奨励会が運営する「災害対応トレーニングセンターの建設・運営に向けた研究会」

2. 実施の目的

- 2018年11月に始動するDMTCの実施に向け、カリキュラムの内容を検討、模擬テストするために、RC95メンバーの夏期集中合宿として実施。
- DMTCの事業展開として計画中の南伊豆町及び予定施設でのカリキュラム内容及び運営方法の検証。
- 南伊豆町の防災の各種計画をもとに進め、実施成果をまとめ、南伊豆町の防災対策に提言、寄与。

3. 実施概要

- ◆日程： 2018年8月2日(木)～5日(日)
- ◆会場： 静岡県賀茂郡南伊豆町 三坂地区防災センター(静岡県賀茂郡南伊豆町入間69-2) 旧三浜小学校(静岡県賀茂郡南伊豆町子浦1472)
- ◆主催： 東京大学 大学院情報学環 総合防災情報研究センター／生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター 災害対策トレーニングセンター(DMTC)
- ◆協力： 静岡県賀茂郡南伊豆町
- ◆実施内容： 頭と体で災害対応の「型」を身に着ける災害対応トレーニングのカリキュラムを検証
- ◆参加費： 無料(交通費、宿泊費は各自負担)

4. 準備作業

- 2月9日、10日 関係者第1回南伊豆町視察
- 4月17日、18日 関係者第2回南伊豆町視察
- 7月5日～13日 合宿参加者募集
- 7月19日 合宿に向けた南伊豆町現地ロケハン
- 7月27日 「合宿のしおり」参加者展開
- 7月30日 南伊豆町との最終打ち合わせ

5. 募集

- 対象者： RC95正会員を優先対象として20名程度を募集
- 募集日時： 7月5日～13日
- 募集方法： RC95正会員に対するメールで告知、募集
- 募集受付： 沼田研究室で受付、対応

<募集チラシ>

DMTC 災害対応トレーニング
頭と体で災害対応の「型」を身に着ける
in 南伊豆町

2018年8月2日(木)～5日(日)
対象：RC95正会員メンバー(無料)

災害対応の全体プロセスを知る
8月2日 14時@三坂防災センター
- 過去の災害対応の事例を知る
- 災害対策本部の運営と役割を知る
- 災害対応の全体プロセスを知る
- 47都府県災害対策本部を知る
- 地震防災計画、防災計画計画、BCP、
- ニュースの危機、迅速な組織的対応に
- 防災対応の重要性を学ぶ

リアルな災害対応を体験する
8月3日～4日 9時@三坂防災センター
- 災害対応本部(災害対策本部)を学ぶ
- 避難経路や避難方法を学ぶ
- 人員配置の考え方を学ぶ
- 避難の被害状況の共有方法を学ぶ
- 学校の被害状況の検証方法を学ぶ
- 避難経路調査や避難経路の検証方法を学ぶ
- 災害救助隊の手続きを学ぶ
- 緊急連絡網の重要性を学ぶ
- 避難を要する心身障害者を輸送、情報収集方法を学ぶ
- ドローン使用、地図を利用した避難経路を学ぶ
- 応急処置訓練、生活支援活動のための
- 避難経路調査、保護者を学ぶ
- など、47都府県災害対応の検証方法を学ぶ
※ 旧三浜小学校(三坂防災センター)にて、
BCP(業務継続計画)やIT(情報技術)を活用した
防災対応の検証を実施

災害対応のプロセスを振り返る
8月5日 9時@三坂防災センター
以下おまけ作成・作成し持参
- 自分の組織の防災計画、BCP、マニュアル更新
- 他分野の防災計画を学ぶ

様々な施設を使い実践的なトレーニングを実施！
旧三浜小学校 三坂防災センター 旧伊豆町立南伊豆小学校
災害対策本部 災害対策本部 47都府県災害対策本部 人員配置の考え方
IT(情報技術)を活用した防災対応 避難経路調査 避難経路の検証
ドローン使用 地図を利用した避難経路を学ぶ
応急処置訓練 生活支援活動のための
避難経路調査 保護者を学ぶ
など、47都府県災害対応の検証方法を学ぶ
※ 旧三浜小学校(三坂防災センター)にて、
BCP(業務継続計画)やIT(情報技術)を活用した
防災対応の検証を実施

主催：東京大学 大学院情報学環 総合防災情報研究センター
生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター
災害対策トレーニングセンター(DMTC)
協力：南伊豆町 沼田研究室
後援：三坂地区防災センターに賛同
12月12日(土)11:45～12:00(12月12日)開催
12月12日(土)11:45～12:00(12月12日)開催
12月12日(土)11:45～12:00(12月12日)開催

会場：DMTC(静岡県賀茂郡南伊豆町子浦1472)
8月2日(木)14時～5日(日)9時
8月2日(木)14時～5日(日)9時
8月2日(木)14時～5日(日)9時

申込：DMTC事務局まで、7/13(金)日曜日の5時
までメールで、dmtc@rc95.com
DMTC事務局 0556-22-1111
DMTC事務局 0556-22-1111
DMTC事務局 0556-22-1111

【1】基本概要

6. 参加者と参加の位置づけ

●RC95正会員メンバー及び加入検討者（25名）

- ・RC95正会員 15名
- ・アドバイザー／オブザーバー／RC95加入検討者 5名
- ・東大関係者 5名

自らを南海トラフ発生後、南伊豆町に派遣された支援員として仮定し、その役割を踏まえ、各単元を受講、検証した。

●南伊豆町職員（1名）

●南伊豆町ボランティアコーディネーター（11名）

初日のトレーニングの様子を報じた地元新聞の記事を見た関係者の要請により、第3日目の8月4日（土）のトレーニングに参加。



<南伊豆町基本データ>

場所；静岡県賀茂郡南伊豆町

男 4,017人 女 4,369人 計 8,386人

世帯数3,920世帯

（平成30年8月1日現在）



【2】実施プログラム

プログラムは、前半の2日間と後半の2日間に区分し、実施。

- 8月2日、3日のプログラム；各單元ごとに、検証・議論の上、精緻化。
- 8月4日、5日のプログラム；前半で精緻化した単元を再度実施。

<8月2日(木)>

三坂地区防災センター

- ◆14:00 開始・実施意図説明
- ◆14:15 模擬TRプレ①「48種の災害対応業務概論」
- ◆15:20 模擬TRプレ②「災害対策本部支援TR」
- ◆17:25 終了

<8月3日(金)>

三坂地区防災センター

- ◆9:00 模擬TRプレ③「物資の調達・管理・運搬関連TR」
※物資運搬を兼ね、会場移動

旧三浜小学校

- ◆11:30 物資搬入
- ◆12:00 昼食・休憩 ～ 午後TR準備
- ◆13:00 模擬TRプレ④「避難所運営マネジメント」
※校舎と学校周辺の被害状況調査、ドローンによる被害情報収集、
家屋の応急危険度判定、罹災証明書発行のための家屋調査
- ◆17:30 終了

<8月4日(土)>

- ◆10:00 ジオパーク見学 ※希望者

三坂地区防災センター

- ◆13:00 開始・実施意図&合宿1日目、2日目の報告
- ◆13:30 模擬TR①「48種の災害対応業務概論」
- ◆14:35 模擬TR②「災害対策本部支援TR」
- ◆16:30 模擬TR③「物資の調達・管理・運搬関連TR」
※防災倉庫の見学とTRの成果報告
- ◆17:30 終了

<8月5日(日)>

旧三浜小学校

- ◆9:00 模擬TR④「避難所運営マネジメント」
※校舎と学校周辺の被害状況調査、ドローンによる被害情報収集、
家屋の応急危険度判定、罹災証明書発行のための家屋調査
- ◆12:00 昼食・休憩
- ◆12:45 全体総括
- ◆14:00 終了・解散

2. トレーニング実施内容

【1】 訓練対象

DMTC 9分類		ADF(Action for Disaster Framework) 48		南伊豆合宿での 主な対象
ID	単元名	業務番号	業務名	
1	組織運営	1	災害対策本部の設置・運営	○
		2	計画立案（BCP、地域防災計画、地区防災計画も含む）	
		3	復旧・復興計画の策定・運用	
2	情報	4	通信機能の確保・復旧	
		5	被害情報の収集・報告	
		6	ハザード情報の収集・伝達	
		7	避難勧告の発令・伝達・避難支援	
		8	住民への全庁的広報・マスメディア対応・WEB発信	
		9	相談窓口の設置・運営、電話対応	
		10	土地利用の検討	
		3	人材運営	11
12	視察等要人対応・議員対応			
13	相互応援要請・受援、活動調整			
14	自衛隊・広域消防の応援要請・受援			
15	ボランティアとの連携			
16	自主防災組織等の支援			
4	救助・救急活動	17	職員による救急・救助活動	
		18	医療救護活動・衛生管理・心のケア	
		19	捜索活動・遺体安置等	
5	財政・金融	20	物価安定対策の実施	
		21	財源の確保	
		22	災害関連の出納	
		23	災害救助法等災害関連法令の事務	
6	被災者の生活支援	24	避難所の設置・運営	○
		25	物資の調達・供給	○
		26	要配慮者への支援	
		27	文教施設の対応、応急教育	
		28	義援金の受付・配分	
		29	各種生活再建支援の実施	
		30	被災企業の状況把握・支援	
7	住宅再建	31	応急危険度判定の実施	○
		32	公的な住居修理・解体の対応	
		33	被害認定調査の実施	○
		34	罹災証明書の交付	○
		35	応急仮設住宅の建設・供給・管理	
8	社会基盤システム再建	36	道路施設の被害状況把握・復旧	
		37	警備・交通規制対応	
		38	公共交通機関の被害・運行状況把握	
		39	農地・農業施設の被害状況把握・復旧	
		40	水道施設の被害状況把握・復旧及び応急給水	
		41	下水道施設の被害状況把握・復旧	
		42	電力・ガス・通信・石油関連施設の被害・復旧状況把握	
		43	山地・河川・海岸施設の被害状況把握・復旧	
		44	公共建物・施設の被害状況把握・復旧	
		45	危険物施設の状況把握・安全確保措置	
		46	道路上の障害物の除去	
		47	災害廃棄物の処理	
9	教育・訓練	48	防災教育・訓練の実施	

【1】スタート／実施意図説明

8月2日（木）実施内容（第1回TR）

実施日時	8月2日（木） 14:00～14:15
実施会場	三坂地区防災センター 避難スペース
参加者	RC95メンバー等 14名 / 南伊豆町 土屋様
視察	南伊豆町長、静岡県賀茂地域局危機管理課 塩崎様
実施内容	<ul style="list-style-type: none">■ 会場セッティング<ul style="list-style-type: none">・4人1グループとした島型で参加者席セット・災害対策本部をイメージさせるため、プロジェクター4台をセット・町長はじめ視察者用の席をセット■ 実施意図説明<ul style="list-style-type: none">・町長挨拶・町長へのトレーニング及び48種の災害対応業務の説明・上記説明の事例として、台風12号来襲時の南伊豆町の避難所開設との関係性の説明



8月4日（土）実施内容（第2回TR）

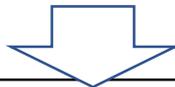
実施日時	8月4日（土） 13:10～13:30
実施会場	三坂地区防災センター 避難スペース
参加者	RC95メンバー、等 14名 / 南伊豆町防災ボランティアコーディネーター 11名 南伊豆町 土屋様
視察	静岡県賀茂地域局危機管理課 田島様
実施内容	<ul style="list-style-type: none">■ 全般<ul style="list-style-type: none">・3日めからの合流参加者と急遽参加が決定した南伊豆町防災ボランティアコーディネーターの方を含めて、2チームに分けて進行■ セッティング<ul style="list-style-type: none">・4台のプロジェクターを災害対策本部支援TRに向けセッティング・参加者増加に併せて、参加者席を配置■ 実施意図説明



【2】 模擬TR① 「48種の災害対応業務概論」

8月2日（木）実施内容（第1回TR）

実施日時	8月2日（木） 14:15～15:10
実施会場	三坂地区防災センター 避難スペース
参加者	RC95メンバー等14名 / 南伊豆町 土屋様
視察	南伊豆町長、静岡県賀茂地域局危機管理課 塩崎様
実施内容	・災害対策本部映像で災害時の事例を紹介 ・48種の災害対応業務のシートで説明 ・南伊豆町担当者から、受講者に支援員としてオリエン
特記事項	※予定していたBOSSの体験は割愛。 ※同様に48種の災害対応業務と南伊豆町の防災計画の照合は割愛。



* 第2回TRに向けた改善点

- BOSSを実際に体験してもらう時間を設定し、タブレットや個人の携帯を利用し、第1回目の参加者の誘導で、新規参加者に体験を促すこととした。
- TR自体の進行の流れを再確認し、指導計画に基づいた内容を行うこととした。ただし、進行を補完するパワポのスライド等の準備は行えなかった。

【2】 模擬TR① 「48種の災害対応業務概論」

8月4日（土）実施内容（第2回TR）

実施日時	8月4日（土） 13:30～14:50
実施会場	三坂地区防災センター 避難スペース
参加者	RC95メンバー等22名 / 南伊豆町防災ボランティアコーディネータ11名 南伊豆町 土屋様
視察	静岡県賀茂地域局危機管理課 田島様
実施内容	<ul style="list-style-type: none">・災害対策本部映像で災害時の事例を紹介・48種の災害対応業務のシートで説明・BOSSの操作体験をチーム内で交互に体験 （参加者を2チームに分け実施）・3D情報集約システムを活用した南伊豆町担当者からのオリエン
特記事項	※南伊豆町の紹介に3D情報集約システムを導入、活用した。 ※プロジェクター等を活用し、災害対策本部のイメージを想起できるセッティングとした。



【3】 模擬TR② 「災害対策本部支援TR」

<訓練シナリオ>

南伊豆町図上訓練シナリオ

DMTC

番号	発災からの経過	件名	内容	発生場所	発信元1	発信元2	付与方式	付与者の対応	追加情報	ファクトシグ	備考
12		本部会議指示	災害対応工程管理システムで災害対応の全体の流れを確認するように。								
13		庁内被害状況	北館の職員です。町役場の3階で天井の一部が落下しました。負傷者は学校教育課の職員4名です。	町役場	職員						
14		建物倒壊情報	付与1 淡田野・セブイレブ付近の土屋建設分譲地で火災が発生した。近隣の建物2棟に延焼している模様。現時点で負傷者3名が確認されている。	〒415-0152 静岡県賀茂郡南伊豆町淡235-1	住民						南伊豆町の防災訓練シナリオ
15		庁内連絡	窓口の職員ですが、窓口を利用していた市民に、安全のため、窓口で待機してもらっています。帰宅したいとのことですが、外に出て帰ってもらっても大丈夫でしょうか。	町役場	職員						
16		警察情報	南伊豆警察です。国道136号の役場近くの交差点付近で、乗用車複数台からなる追突事故発生し、反対側車線を塞いでいます。軽傷者8名で、重傷者はいない状況です。	〒415-0304 静岡県賀茂郡南伊豆町加納	南伊豆警察署			情報記録班:市内の道路状況を一元管理 建設総務班:緊急輸送道路の情報を整理		画像1	
17		職員負傷連絡	役場職員です。地域福祉課や生活課課などの職員8名が負傷。うち2名は階段から転落した模様です。	町役場	職員						階段から転落した地域福祉課の職員2名は、重傷のため、ふれあい南伊豆町まどか山病院に
18			小浦の住民です。小浦郵便局の北側の住宅1戸の火災が発生しています。家に住民が居たかはわかりません。早く消火して。	〒415-0632 静岡県賀茂郡南伊豆町小浦911-1	住民						

訓練 発信日時 平成30年2月17日
発信所属 南伊豆中救護所(榑原) (10:51)

1 情報伝達ルート
(報告元) 南伊豆中救護所 → (経由) 無線 → (報告先) 南伊豆町 災害対策本部

2 件名
南伊豆中救護所で
医療スタッフ、医薬品の不足(処理できない)

3 内容
南伊豆中救護所に多数の負傷者が運び込まれて、医薬品、医師をはじめとした医療スタッフが不足しており、救護所として処理できていない。
至急、医療スタッフの派遣、医薬品の手配を要請する。
このままだと、家族が暴動化する恐れもある。
また、洗浄用の水が大量に必要なため手配して欲しい。

補足: 救護所が1ヶ所のためパニック状態
医薬品は生理食塩水、ブドウ糖液、滅菌ガーゼを100セット
希望
スタッフより医薬品の手配の方が緊急案件
県の備蓄品の手配

所管: 医療防疫班、総務班、上下水道班

▶ ... 17 18 19 20 21 22 23 24 25

<情報付与カード>

<情報付与 ; TV映像>



【3】 模擬TR② 「災害対策本部支援TR」

8月2日（木）実施内容（第1回TR）

実施日時	8月2日（木） 15:20～17:25
実施会場	三坂地区防災センター 避難スペース
参加者	RC95メンバー等14名 / 南伊豆町 土屋様
視察	南伊豆町長（～16:00）、静岡県賀茂地域局危機管理課 塩崎様
実施内容	<ul style="list-style-type: none">・情報付与、情報対応・処理の2チームに分かれ、交互に情報対応の体験を行った。・南伊豆町に合わせたシナリオに基づき、参加者個人の携帯電話や人的な持ち込みで提供した。・参加者に災害時の混乱を体験してほしいという趣旨から、体験方法等の説明は割愛し、発災後に業務分担、情報処理の方法、備品等の使い方は、各チームで検討した。・RC95メンバーでもあるインフォコムBCのBCポータルでも情報付与を行った。・情報対応の体験後、収集した情報を会議資料として作成する体験をチームごとに行い、災害対策本部長に代表者が報告するものとした。
特記事項	<ul style="list-style-type: none">※南伊豆町の災害対策本部の情報対応のシナリオを地域に併せて作成※予定していた災害対策本部レイアウトの検討及び設営は割愛※同様に業務分担は、情報対応体験の一部として実施※RC95のメンバーであるインフォコムBCポータルを情報収集、整理のツールとして導入した。※Aチーム、Bチームを設定し、交互に受信側、発信側を体験できるものとした。



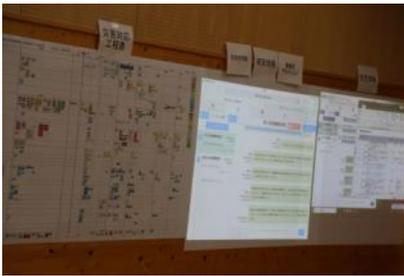
* 第2回TRに向けた改善点

- 状況付与に状況の確認を入れ、会場を立体的に使用することとした。
- 予めグループの設定を行い、第1回TR経験者を各グループに配した。
- 情報対応の役割分担を予め設定した。

【3】 模擬TR② 「災害対策本部支援TR」

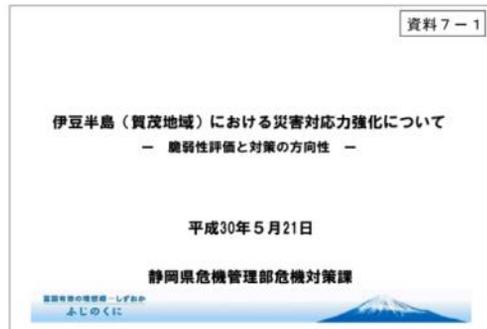
8月4日（土）実施内容（第2回TR）

実施日時	8月4日（土） 14:35～16:20
実施会場	三坂地区防災センター 避難スペース
参加者	RC95メンバー等22名 / 南伊豆町防災ボランティアコーディネータ11名 南伊豆町 土屋様
視察	静岡県賀茂地域局危機管理課 田島様
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・初回同様、情報付与、情報対応・処理の2チームに分かれ、交互に情報対応の体験を行った。 ・南伊豆町に合わせたシナリオに基づき、参加者個人の携帯電話や人的な持ち込みで提供した。 ・初回と異なり、業務分担、情報処理の方法、備品等の使い方は、各チームで体験の前に検討した。 ・RC95メンバーでもあるインフォコムBCのBCポータルでも情報付与を行った。 ・情報対応の体験後、収集した情報を会議資料として作成する体験をチームごとに行い、災害対策本部長に代表者が報告するものとした。
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ※情報を発報する側に外国人がいる想定を設定し、英語での情報提供を行った。 ※複数のプロジェクター等を活用し、災害対策本部の情報収集のイメージを可視化した。



【4】 模擬TR③ 「物資の調達・管理・運搬関連TR」

＜参考資料＞



＜物資要請書＞

物資要請書		[1] 申込 - 2 統括部 - 3 各部	
要請日時 平成 年 月 日 時 分			
要請部		統括部	
班員	班長	班員	班長
要求所	担当者	氏名	電話番号
要求物資	品目	(特記仕様等)	
	数量	(単位: <input type="checkbox"/> 箱・本 <input type="checkbox"/> セット <input type="checkbox"/> その他())	
使用目的			
引渡場所			
摘要			
使用欄			
要求物資	義採品有無	(<input type="checkbox"/> 有(処理) <input type="checkbox"/> 調達)	
	調達元		
	品目		
	数量		
引渡	場所		
引日	時刻	平成 年 月 日 時 分	

＜物資倉庫リスト＞

倉庫 三坂防災センター					
品名	種別	期限	個数	備考	
アルファ化米	白飯	50食	2022年8月	100箱	
	白飯	備食	2022年8月	60箱	
	ワカメ	"	2022年8月	60箱	
	カレー	"	2022年8月	60箱	
	白飯	備食	"	60箱	
	白飯	50食	"	120箱	
	赤飯	"	"	60箱	
	絆わらひ	"	"	80箱	
はんぶん米			2022年3月	24箱	
"			2021年3月	40箱	
水	2ℓ				
毛布		10枚入			
缶入りソフトパン	缶が7個	2.4個	2022年3月	10箱	
	オレンジ	2.4個	2022年3月	10箱	
	コーヒー	2.4個	2022年3月	10箱	
	コーヒー	2.4個	2021年3月	10箱	
	缶が7個	2.4個	2021年3月	30箱	
	オレンジ	2.4個	2021年3月	10箱	
	黒糖	2.4個	2021年3月	10箱	
充電機					
急速充電器					

倉庫 三坂小学校					
品名	種別	期限	個数	備考	
アルファ化米	白飯	50食			
	カレー	"			
	ワカメ	"			
	チキン	"			
	赤飯	"			
	白飯	備食			
はんぶん米			50個入		
缶入りソフトパン	プレーン	2.4個			
宇宙食					
水	2ℓ	6本	2018年9月	1,715箱	
			2020年8月	669箱	
毛布		10枚入			
ロープケース					
ブルーシート					
テント	組立式				
ペンクイック					
発電機	shindawa				
浄水器					
担架					
土嚢袋					
カラーコーン					
コーンバー					
避難所看板					
避難所看板					
トラロープ					
軍手					
暖ボール間仕切り				57セット	
レスキューキット					
スコップ					

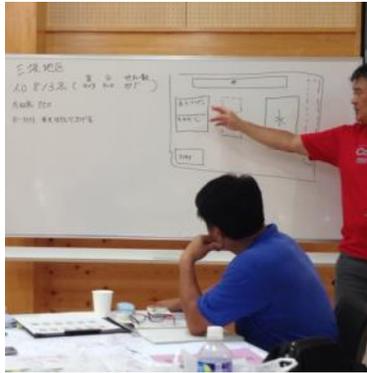
* 配送ルート



【4】 模擬TR③ 「物資の調達・管理・運搬関連TR」

8月3日（金）実施内容（第1回TR）

実施日時	8月3日（金） 9:00～12:00
実施会場	三坂地区防災センター 避難スペース、防災倉庫 旧三浜小学校 コミュニティスペース、物資スペース（体育館）
参加者	RC95メンバー、他 16名
実施内容	<ul style="list-style-type: none">・南伊豆町の防災倉庫である三坂地区防災センターの防災倉庫を検討の材料とし、見学の上、2チームに分かれ、防災倉庫の物資レイアウトを検討した。・同様に、避難所からの物資要請の電話への対応という設定で、配送する物資の内容、配送方法等を検討し、配送計画を作成した。・QRコードによる物資の管理システムを体験し、効率的な物資の管理を検討した。・実際にトラックを使って、物資倉庫から避難所までの配送を体験した。
特記事項	<ul style="list-style-type: none">※沼田研究室で開発中の物資管理システムを投入し、効率性、利便性を検証した。※2トントラックで実際に南伊豆町内を走行し、荷物を運搬するシミュレーションを行った。



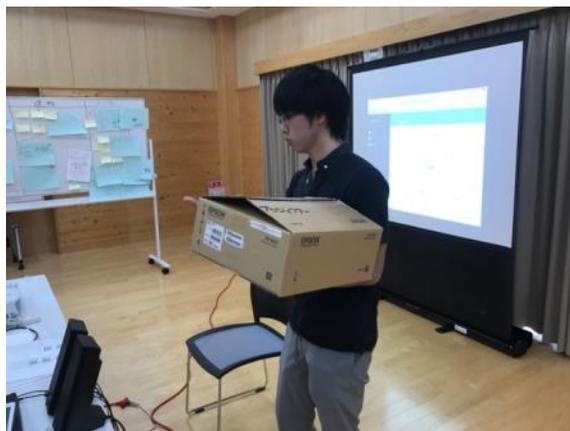
* 第2回TRに向けた改善点

- 会場が三坂地区防災センターのみとなり、輸送、搬入ができないため、第1回TRの状況を参加者に報告し、課題を共有する。

【4】 模擬TR③ 「物資の調達・管理・運搬関連TR」

8月4日（土）実施内容（第2回TR）

実施日時	8月4日（土） 16:30～17:30
実施会場	三坂地区防災センター 避難スペース、防災倉庫
参加者	RC95メンバー等22名 / 南伊豆町 土屋様
実施内容	<ul style="list-style-type: none">・時間の制約から初回TRの報告と物資倉庫の見学、それに基づいた配送計画、QRコードによる物資管理システムの体験を行った。・QRコードによる物資の管理システムを体験し、効率的な物資の管理を検討した。・配送計画については、避難所への物資配送を想定し、配送計画書を作成した。
特記事項	※危険な酷暑のため、防災倉庫内の活動は極力少なくした。

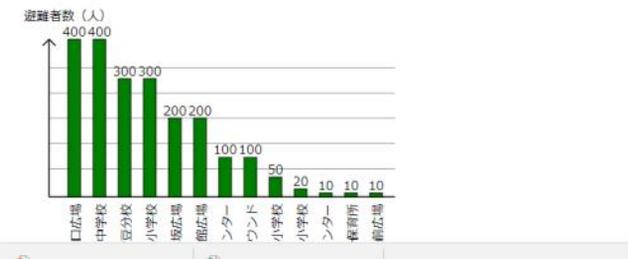


【5】 模擬TR④ 「避難所運営マネジメント」

<避難所情報共有システムCOCOA>



避難者数（避難者名簿の集計）



<南伊豆町避難所運営マニュアル>



<阪神・淡路大震災の課題DB>



<BCポータル>



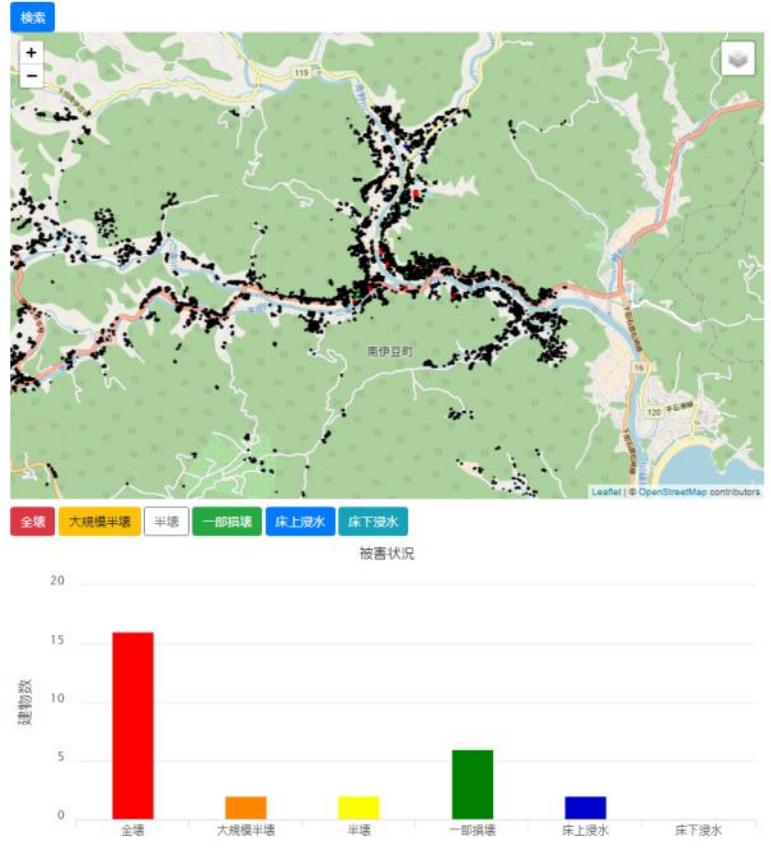
<ゆいぽた>



【5】 模擬TR④ 「避難所運営マネジメント」

<建物調査・罹災証明発行支援システム>

DMTC 建物調査・罹災証明書発行支援システム



* 応急危険度判定 TR対象物件



※漁協事務所・店舗は、家屋応急危険度判定にご協力いただいた。

【5】 模擬TR④ 「避難所運営マネジメント」

8月3日（金）実施内容（第1回TR）

実施日時	8月3日（金） 13:00～17:30
実施会場	旧三浜小学校 コミュニティスペース、体育館、他
参加者	RC95メンバー等 16名
実施内容	<p><避難所レイアウト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・酷暑のため、物資搬入のTRからそのまま避難所となる体育館を確認し、2チームに分けて避難所レイアウトを考えてもらう流れとした。レイアウトはチームごとに検討し、作成した。 <p><被害状況の確認></p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害状況の確認は、旧三浜小学校の校舎、校庭、周辺道路などに被害状況を示すファクトシートを設置し、校舎・校庭の安全を確認しながら、被害をさがしてもらうものとした。 ・被害状況の確認では、BCポータルでファクトシート、場所、被害状況のコメントを避難所運営本部に収集する仕組みを体験した。 <p><ドローンによる被害調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の被害調査としては、校庭からドローンを飛ばし、旧三浜小学校を避難所とする周辺地域の状況を撮影、画像の送信による情報収集及び分析の体験を行った。 <p><避難所の簡易設営・運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の簡易設営は、避難所レイアウトにもとに協議した内容を体育館で実際にコーンやブルーシートを使って、スペースの配置を行った。 ・同時に、備蓄品のダンボール畳・間仕切りを設営し、1人あたりのスペース感を体感してもらった。 ・また、ゆいぽたやCOCOAを操作し、避難所での受付、安否確認の体験を行った。 <p><家屋の被害認定体験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋の被害認定では、子浦地区の漁協が持つ建物を借用し、認定方法や認定の種類、用紙の貼りだしなどの体験してもらった。 ・建物への往復時に地域の津波避難も意識し、避難を体感してもらった。
特記事項	<p>※台風12号来襲時のまとめサイトによる被害状況の把握は割愛</p> <p>※避難所の防災倉庫の物資確認は酷暑のため、割愛</p> <p>※避難所アセスメント及び日報の記入TRは時間が押したため割愛</p>



* 第2回TRに向けた改善点

- 一般的に住民が運営する避難所についてなぜTRを行うのか、明示する。
- 災害救助法についての説明が少なかつたため、しっかりと行う。
- 避難所アセスメント及び日報の記入についても実施する。
- まとめサイトにより報道やツイッターなどからの被害情報の把握の例を示す。

【5】 模擬TR④ 「避難所運営マネジメント」

8月5日（日）実施内容（第2回TR）

実施日時	8月5日（日） 9:00～12:40
実施会場	旧三浜小学校 コミュニティスペース、体育館、他
参加者	RC95メンバー等19名 / 南伊豆町 土屋様
視察	南伊豆町長（13:00～）、静岡県議会議員 蓮池様 静岡県賀茂地域局危機管理課 鳥居様
実施内容	<p><避難所レイアウト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回同様、2チームに分けて避難所レイアウトを考えてもらう流れとした。レイアウトはチームごとに検討し、作成した。 <p><被害状況の確認></p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害状況の確認は、旧三浜小学校の校舎、校庭、周辺道路などに被害状況を示すファクトシートを設置し、校舎・校庭の安全を確認しながら、被害をさがしてもらうものとした。 ・被害状況の確認では、BCポータルでファクトシート、場所、被害状況のコメントを避難所運営本部に収集する仕組みを体験した。 <p><ドローンによる被害調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の被害調査としては、校庭からドローンを飛ばし、旧三浜小学校を避難所とする周辺地域の状況を撮影、画像の送信による情報収集及び分析の体験を行った。 ・初回の被害調査の際に、ドローンの性能の問題から地域全体の被害を把握することが困難だったため、急速、性能がよいドローンを用意し、被害状況を把握した。 ・ドローンの画像は、3Dに加工し、被害状況の把握の可能性を体験できるものとした。 <p><避難所の簡易設営・運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の簡易設営は、避難所レイアウトにもとに協議した内容を体育館で実際にコーンやブルーシートを使って、スペースの配置を行った。 ・同時に、備蓄品のダンボール畳・間仕切りを設営し、1人あたりのスペース感を体感してもらった。 ・また、COCOAを操作し、避難所での受付、安否確認の体験を行った。 <p><家屋の被害認定体験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋の被害認定では、子浦地区の漁協が持つ建物を借用し、認定方法や認定の種類、用紙の貼りだしなどの体験してもらった。 ・建物への往復時に地域の津波避難も意識し、避難を体感してもらった。
特記事項	<p>※暑さのため、屋外や体育館での作業が続かないよう、全体の流れを以下とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営概論 ・避難所レイアウトの検討 ・避難所設営確認 ・避難所被害確認、ドローンによる被害情報の把握 ・避難所受付システムの紹介、避難所アセスメント、家屋応急危険度判定とした。 <p>※ドローン飛行時間が地域へのご連絡と異なりました。</p>



3. 取材・報道

【1】 報道記事

- 伊豆新聞 8月3日（金）
- ・新聞紙面
- ・WEB
- ※下記はWEB



伊豆新聞 伊豆新聞 伊豆新聞 伊豆新聞 伊豆新聞

広告が Google により終了しました
この広告の表示を停止

ニューストップ 伊豆 下田 中伊豆 静岡 関東・中部 コラム 写真

下田の最新

東大が災害対策訓練センター 11月めど、南伊豆に開設

下田 2018年08月03日



災害時対応の手順を表で説明する沼田講師（左から2人目）＝南伊豆町の三坂防災センター

■ 23人参加し事前合宿

東京大は11月をめどに、南伊豆町内に災害対策トレーニングセンター（DMTC）を開設する。災害時の動きを自治体職員や企業関係者が実践を通して学ぶ施設で、旧三浜小と三坂防災センターを中心に活動する。2日、大学教員らの事前検証合宿が始まった。合宿は5日まで。

合宿には防災研究者や東電電験など大手企業の社員ら23人が参加。東大からは生産技術研究所の岸利治所長、目黒公郎教授、沼田宗純講師が集まった。災害を想定し、物資輸送やドローンによる被災状況確認を実際に行う。

沼田講師は「実際に物を動かす本格的な訓練は、あまり行われていない。南伊豆ならそういう場がつかれる」とし、「まず合宿でやってみる。改善点を見つけ11月の本格始動に向け準備したい」と話した。

初日は午後三坂防災センターへ集まり、座学や机上実習を行った。7月豪雨の倉敷市の災害対策本部の映像も見た。岡部克仁町長も参加し「（災害時の）リーダーが育成施設になってほしい」とあいさつした。

【写真】災害時対応の手順を表で説明する沼田講師（左から2人目）＝南伊豆町の三坂防災センター

- 朝日新聞 8月23日（木）
- ・WEB

- 静岡新聞 8月5日（日）
- ・新聞紙面
- ・WEB
- ※下記はWEB
- ※Yahooニュースでも配信



つなぐ(楽しむ)しずおかライフ @S HIZUOKA

静岡新聞 SBS

広告は Google により終了しました
この広告の表示を停止

ホーム ニュース スポーツ グルメ イベント 観光 映画 プレゼント 地図 GIRLS+

社会 政治 経済 暮らし・娯楽 地域 こちや おやこ 芸術・文化 教育・子育て

アットトップ > ニュース > 社会 > 静岡県 > 防災・減災 > 南伊豆に災害対策訓練センター 東大が開設 11月に開設

南伊豆に災害対策訓練所 東大が廃校活用、11月に開設

(2018年8月5日)

東京大は11月、南伊豆町に災害対策トレーニングセンターを開設する。小学校跡地などを活用し、自治体職員や企業の防災担当者らが実践的に災害対策を学ぶ場所とプログラムを提供する。

廃校になった旧町立三浜小と、町が2017年に整備した三坂地区防災センターを会場として利用。座学やゲーム中心の内容ではなく、より実践に即した体験型の研修を受講できる。大学によると、国内では珍しい取り組みという。

災害対策本部の運営、情報収集と伝達、支援物資の受け入れと運搬などのプログラムを用意。（1）小学校体育館に避難所を開設する（2）ドローンを使った被災状況の確認（3）罹災（りさい）証明書発行のための家屋の応急危険度判定（4）支援物資の仕分け、運搬などを実際に体験してもらう。

8月2～5日に会場で、研修内容や運営方法を確認する検証会を開いている。災害ボランティアを含む県内外の76人が参加。4日は「海軍隊が入り組み、孤立地域発生も懸念される南伊豆町に応援に入る」との想定で研修に臨んだ。

町内には東京大の研究施設があり、町が会場提供を快諾したため、開設場所に決めたという。同大講師の沼田宗純さんは「頭だけでなく体でも災害対応力を身につけてほしい」と話している。



災害対策トレーニングを体験する参加者。東京大が11月に南伊豆町のセンターを開設する＝4日午後、南伊豆町の三坂地区防災センター



朝日新聞 DIGITAL

トップニュース スポーツ カルチャー 特集・連載 オピニオン

新着 天声人語 社会 政治 経済・マネー 国際 テック&サイエンス 環境・エネルギー 地域

静岡 南伊豆町に災害対策のトレーニング拠点 東京大

石原幸崇 2018年8月23日03時00分



災害対策の実践的なトレーニングの拠点が静岡県南伊豆町にできる。開設するのは東京大学災害対策トレーニングセンター。廃校になった同町子浦の旧三浜小学校や周辺施設を利用し、自治体職員や防災関連企業の社員らを対象にトレーニングを実施しながら、体系的な訓練プログラムの研究・開発をする。11月からの本格始動を目指す。

大きな災害が起きるたびに情報収集の混乱や救助、救援の遅れなどが課題として浮かび上がっている。同センターは、災害対応力を上げる教育訓練センターとして設置された。訓練会場を探していたところ、旧三浜小の校舎やグラウンドがトレーニングに使えることが分かり、町も協力することになった。

今月2日から5日まで、研究者や企業の社員、地元住民ら50人あまりが参加し、事前の模擬訓練が旧三浜小や三坂地区防災センターなどで行われた。災害対策本部の情報処理や避難所運営、支援物資の輸送訓練のほか、ドローンを使った被災状況の調査訓練などを行った。

同センターの沼田宗純・東大講師は「通常の訓練は図上で想定で処理することが多いが、実際に体や物を動かす体験型の訓練が有効だ。訓練を標準化して、どこでも、誰でもできるようにするのが目標だ」と話している。（石原幸崇）

広告は Google により終了しました
この広告の表示を停止
広告表示設定



東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター/
生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター
災害対策トレーニングセンター
(DMTC)